

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」
 ～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

主体的に考え、豊かに伝え合う七里っ子の育成
 ～よりよい生活の創造に向けた 特別活動の工夫・改善～

4月

学力向上目標①

さいたま市学習状況調査の平均正答率を令和元年度の値より3pt向上させた値にする。特に活用問題の正答率を3pt向上させた値にする。

＜目標達成に向けた学力向上策＞

策1

全学年で学級会を確実に実施する。特別活動の年間指導計画を確認しながら発達段階に応じた学級会を実施する。

開始期日

6月中

具体的な手立て

- 令和元年度さいたま市学習状況調査を分析し、児童の実態を把握する。
- 研修を通し、学級会スタンダードを作成する。提案理由の書き方、学級会の進め方、学級会ノートの書き方、振り返りのやり方等を統一した。
- 議題の意味のたせ方、議題の必要感の感じさせ方等、教師による支援を実施する。

策2

ESDの考えとして「知る・考える・行動する」を共通理解する。その中で「知る」工程を、学級活動を中心に実施していく。

開始期日

8月中

具体的な手立て

- 引き続き、教師による児童の実態把握をもとに、学級会の意義、自分の考えのもち方、学級会の進め方等を知っていく。
- 児童自身が自分の現状を知り、自分が身に付けたい力を考えていく。
- 全国学力学習状況調査の結果を全職員で分析し、身に付けさせたい力を明確にしていく。

8月

本年度の振り返り

- ・本校児童の実態を全教職員で分析、共有し、身に付けさせたい力を明らかにすることができた。また、研修を通し、学級会のやり方や道具を統一することができた。
- ・市学習状況調査が中止となったが、研修等を通し、児童の学力向上を図る具体的な手立てについて考え、実践することができた。
- ・SDGsと各教科の指導内容の関連を分析し、次年度の指導計画に反映させた。

達成度

70%

2月

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- 研修を通し、児童に身に付けさせたい力に迫るための手立てを考え、研究授業等での実践を通して明らかにしていく。
- 自分の考えをしっかりともち、伝えるためには基礎基本の定着が必要だと考え、基礎基本の定着のための手立てを考え全校で取り組んでいく。
- SDGsに関連した取組を考え、実践し、指導計画の充実を図る。